

# 千代鈴全勝独走

# 紙相撲新聞

第157回本場所  
中日～九日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

## 大神楽との激闘を制し、十日目にも優勝か 地元千葉では全勝優勝&綱昇進祝賀ムード

【第百五十七回本場所中日～九日目】

11月6日に中日と七日目の取組が行われ、七日目を終えて大関千代鈴が7戦全勝で優勝争いの先頭に立った。これを1敗で、大関大神楽、平幕の西神門、六歌仙の3人が追う展開となった。

また、横綱春ノ翔が七日目に関脇鹿富士に寄り切りで敗れて4敗目を喫し八日目から休場することになった。



九日目、雌雄を決する大神楽との取り組みは団体取り直しの大熱戦。食い下がる大神楽を最後は向う正面に寄り切った。



輝く千代鈴の陰で横綱若ノ嶋は実力を発揮できず九日目に鹿富士に4敗目を喫し休場となった。

の初挑戦を受け、左を差される苦しい展開に耐えて最後は寄り切って勝ったものの、七日目に出羽翼ののど

大関千代鈴はまったく危なげない相撲で初日から白星を重ね、中日は関脇鹿富士ののど輪を難なく引き落とし、七日目は勢いのある新鋭綱乃花を押し出しに破った。今場所ここまで土つかずの七連勝だが、先場所三日目から連勝を続けており、この連勝となった。



千代鈴○(寄り切り)●綱乃花

全勝 千代鈴  
二敗 大神楽 西神門

大関大神楽は三日目に鬼ヶ嶽に苦杯を喫したものの、七日目と中日の対戦成績で3勝5敗と負け越している。関脇佐賀ノ海を下して、千代鈴に1差でビタリとついでいる。



出羽翼●(寄り切り)○大神楽

平幕では、入幕2場所目の西神門、3場所目の六歌仙がともに連勝して、6勝1敗と早くも勝ち越した。今後、厳しい相手と当たるのが予想され2人の真価が問われるだろう。

五日目まで5連勝して期待された綱乃花だが、中日に小結鬼ヶ嶽に寄り切りが敗れて2敗に後退。上位の壁を感じた2日間となった。

続いて八日目と九日目が2週連続で終えて、大関千代鈴が9戦勝ち放し、これを2敗で大関大神楽、平幕の西神門の2人が星の差2つで追いかける展開となった。

また、横綱若ノ嶋が九日目に鹿富士に敗れて4敗目を喫し、十日目から休場することになった。これにより、十日目と千秋楽の横綱大関戦を見ることができなくなり、両横綱の休場により千秋楽の横綱土俵入りも見えなくなった。

千代鈴はまったく危なげのない相撲でこゝまで無傷の7連勝。八日目は幕内下位の6勝1敗の六歌仙との割り組まれた。「六歌仙に勝機があるとすればのど輪かなあ？」と勝間田親方。しかし、勝負は千代鈴が素早く左を差してのど輪に入る隙をみせず六歌仙を寄り切った。



千代鈴○(寄り切り)●六歌仙

九日目はいいよ今場所の優勝を決める一番と言った。大関大神楽は八日目に6勝1敗の西神門を退けて1敗を守った。この一番に勝てば、1敗で千代鈴と優勝争いの先頭に並ぶことになる。

「個人的には大神楽に勝ってもらって、そのまま共に1敗で千秋楽に優勝決定戦でもう一度対戦するのが見たいんだけどね！」と朝日松理事長。その通りに運ば最高に盛り上がる千秋楽なること間違いなしだが、果たしてどうなる展開になるのか？

注目的一项是、千代鈴が前へ出て正面土俵に寄るが大神楽が左へ回り込むながら左からすくうと千代鈴の足が土俵を割る。しかし、千代鈴の圧力もあって同時に大神楽の足も土俵の外に出た。協議の結果、両者土俵を割るのが同時に取直となり、大関同士に盛り上がり意地がぶつかる熱戦に館内は大いに盛り上がる。

取り直しの一番は、同じように千代鈴の寄り回りを残す大神楽。大神楽が左を差そうかという体勢になったが、これを千代鈴が差し替えて向こう正面に大神楽を寄り切った。

「千代鈴かあ」と声上がる。

千代鈴が全勝を守り、大神楽は2敗に後退。この一番の勝利で千代鈴が優勝と横綱をぐいっ！と引き寄せた。また、千代鈴は先場所からの連勝を18とし、英らの19連勝に次ぐ歴代10位となった。